

説教「安心しなさい」

イザヤ 30 : 15-17 ; マタイ 14:22-33

2021年2月14日 主日礼拝

日本基督教団仙川教会

大串肇牧師

22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。23 群衆を解散させてから、祈るためにひとり山にお登りになった。夕方になっても、ただひとりそこにおられた。24 ところが、舟は既に陸から何スタディオンか離れており、逆風のために波に悩まされていた。(マタイ 14:22-24)

主イエスは5000人の人々に食事を与えた奇跡を起こされました。その後すぐにイエスが湖上を歩まれました。その奇跡が記されています。有名な話ですが、現代のわたしたちはどのように受け取ったらいいでしょうか。

まず、わたしたちが注目すべきことは、このイエスの奇跡を目撃した目撃者は一般群衆ではなく、イエスの弟子たちであることです。この奇跡の目標は弟子たちが奇跡を通りしてイエスの教訓を受け、弟子としての訓練を受けることにあると言えます。彼らこそ、イエスを「神の子」とであると告白する共同体であり、その群れを導く人々です。ですから、湖の正確な名前も地理的な位置も何も書かれていません。マタイ福音書は関心がないのです。大事な事はイエスが彼らと共にいることです。言い換えますと、イエスが彼らとともにいらっしゃるときは問題がありません。しかしイエスがあたかも沈黙し、不在でいるかのような時にいろいろ起きるのです。とりわけ復活後の教会にとりましては姿が見えないのですから、なおさらです。主はわたしたちの目には見えないお方です。そこがキリスト教信仰の特徴です。又本質的な意味があります。しかし同時に、それが「不安」の原因であり、わたしたちにとりましては試練なのです。「夜」「水」「嵐」—これらは皆旧約聖書では言わば不安や恐れ、試練の象徴です。試練や孤独の最中であって神が沈黙し続け、遠く離れているようにわたしたちの人生が孤独のように思えるとき、それは試練を意味します。

25 夜が明けるころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれた。26 弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげた。27 イエスはすぐ彼らに話しかけられた。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」(25-27節)

古代神話の中にも神のような存在が水や海の上を歩行するという話はよく出てきます。確かに科学などではこの物語が神話なのか、事実なのかどうか、はっきりと証明できませんが、反対に否定もできません。ではどう理解すればいいでしょうか。そこでわたしたちが注目すべき第二の点は奇跡そのものではなく、奇跡のこの

出来事の中で生き生きと交わされているイエスと弟子のペトロとの対話です。湖上を歩行するイエスを見てペトロは幽霊だと思って恐れしました。しかしそのペトロたちにイエスはすぐに語り掛けました。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と。このイエスの言葉によってペトロは冷静さを取り戻しました。そこでペトロはイエスの言葉を信じて勇気を出して挑戦しました。

28 すると、ペトロが答えた。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」 29 イエスが「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から降りて水の上を歩き、イエスの方へ進んだ。 30 しかし、強い風に気がついて怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。

ペトロはイエスを信頼して挑戦しました。キリストの言葉を信じて、キリストだけを見ながら前を進んでいる時は、たとえ湖の上でも臆することなく歩いていきました。しかし「強い風」に気が取られますと、怖気づき、沈みかけてしまったのです。このとき、ペトロは自分の無力さ、弱さに気が付いたのです。そこで再びパニックになってしまいました。

ペトロは信仰においても成長していません。先ほどはイエスを幽霊だと勘違いし、パニックになっていました。しかしお気づきでしょうか。パニックになっているのは同じなのですが、今度は少し違います。ペトロは「主よ、助けてください」と叫んだのです。大した違いがないように思えるかもしれませんが、信仰においてはまるっきり違います。つまり、ペトロは「主よ」と呼びかけ、試練の中で主に祈っているのです。ですから、この祈りの声に応えるかのように

31 イエスはすぐに手を伸ばして捕まえ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われた。 32 そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まった。 33 舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝んだ。

信仰があっても、なくても嵐を回避したり、危険をすべて取り除くしたりすることはわたしたちには出来ません。しかしたとえ試練の最中にありましても信仰によって平安が与えられます。あたたかも神が語るように、聖書を通してわたしたちは慰めや平安の言葉を聞くことができます。神の御手が差し伸べられるかのようにわたしたちは救われ、罪や滅び、死の恐れや不安から解放されるのです。

確かにペトロのようにわたしたちも信仰の薄い者に過ぎません。しかし「主よ、助けて下さい」という祈りに、主は必ず応えて下さることを知っています。それがわたしたちの信仰であり、希望ではないでしょうか。今わたしたちの世界は光と闇、信仰と疑いや不安が入り混じっています。それがまさに「夜明け」の時代です。しかし必ず闇夜は開け、朝の光は差し込んできます。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」。今朝、イエスはわたしたち一人ひとりに語り掛けて下さるのです。「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と。ご一緒にお祈りいたしましょう。